

第二次鹿児島市交通事業経営健全化計画の実施状況 30年度実績

- 1. 総括表（30年度末時点） P1
- 2. 目標値達成状況 P2
- 3. 目標効果額達成状況 P3
- 4. 重点取組項目
 - （1）安全・快適なサービスの提供 P4～9
 - （2）運行の効率化 P10
 - （3）経営基盤の充実・強化 P11～17
 - （4）公営交通事業者としての役割を踏まえた事業推進 P18～21

第二次経営健全化計画 総括表(30年度末時点)

【重点取組項目】

	項目数	30年度までに 完了したもの (◎)	元年度も 継続するもの (○)	元年度から 実施するもの (☆)	検討中 (▲)
(1) 安全・快適なサービスの提供	21	3	17	0	1
① 安全運行の推進	8	1	7		
② 快適で便利なサービスの提供	13	2	10		1
(2) 運行の効率化	4	0	3	0	1
① バス運行の効率化	3		2		1
② 電車運行の効率化	1		1		
(3) 経営基盤の充実・強化	19	1	18	0	0
① 増収対策	9		9		
② 経費節減	8		8		
③ 組織の活性化	2	1	1		
(4) 公営交通事業者としての役割を踏まえた事業推進	15	0	15	0	0
① 自動車運送事業の見直し	2		2		
② 市のまちづくりとの連携	11		11		
③ 積極的な情報発信	2		2		
計	59	4	53	0	2

目標値達成状況

取組項目	指 標	基準値 (27年度末)	➡	目標値 (元年度末)	30年度末	進捗率
(1)安全・快適なサービスの提供						
①安全運行の推進 (ドライブレコーダーの積極的活用)	市バス全車両におけるドライブレコーダーの設置率	25%	➡	100%	100%	100%
①安全運行の推進 (安全衛生管理の推進)	健診結果が要治療等である者の健康相談への参加率	30%	➡	100%	62.9%	47.0%
②快適で便利なサービスの提供 (バリアフリーの推進)	市電全車両における超低床車両の導入率	24.1%	➡	30%	30.9%	100%
	市バス全車両における低公害低床型車両の導入率	60.8%	➡	78%	73.0%	71.0%
(3)経営基盤の充実・強化						
②経費節減 (エコドライブの徹底)	バスの燃費	2.297km/L	➡	2.320km/L	2.257km/L	△174%
(4)公営交通事業者としての役割を踏まえた事業推進						
②市のまちづくりとの連携 (観光施策との連携)	観光電車の年間利用者数	3,053人	➡	3,350人	2,585人	△158%

目標効果額達成状況(平成30年度まで)

(単位:千円)

具体的方策		目標効果額				
		29年度	30年度	小計 (A)	元年度	計
(2)運行の効率化		1,050	5,377	6,427	8,654	15,081
① の 効 率 化	① バ ス 運 行	1,050	2,100	3,150	2,100	5,250
	抜本的な路線、ダイヤの見直し(バス) 共同運行解消の検討(バス)	0	3,277	3,277	6,554	9,831
(3)経営基盤の充実・強化		45,798	47,284	93,082	28,852	121,934
① 増 収 対 策	新たな定期券制度等の創設	2,653	2,653	5,306	2,653	7,959
	広告収入の拡大	1,716	8,917	10,633	13,633	24,266
	乗車券等及びグッズ販売の促進	665	1,010	1,675	1,354	3,029
	資金の運用	250	150	400	75	475
② 経 費 節 減	人件費の抑制	35,218	29,056	64,274	5,476	69,750
	修繕費等の縮減	4,940	4,940	9,880	4,940	14,820
	光熱水費など管理経費の縮減	356	558	914	721	1,635
合 計		46,848	52,661	99,509	37,506	236,524

実績額		
30年度まで (B)	差額 (B)-(A)	達成率 (B)/(A)
7,792	1,365	121.2%
7,792	4,642	247.4%
0	△ 3,277	-
123,703	30,621	132.9%
17,948	12,642	338.3%
17,286	6,653	162.6%
1,603	△ 72	95.7%
4,789	4,389	1197.3%
63,187	△ 1,087	98.3%
17,645	7,765	178.6%
1,245	331	136.2%
131,495	31,986	132.1%

(1)安全・快適なサービスの提供

番号	計画掲載	具体的方策 <small>◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中</small>	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
1	P9	①安全運行の推進 ア. 職員研修の充実(拡充) 多様化するニーズ等に対応するため、毎年度、研修計画を見直し、乗務員を対象とした接客研修等を実施することにより乗車サービスの向上を図るほか、快適な職場環境づくりや職員の資質向上等にむけた、管理職員に対する職場のマネジメントや人材育成のための研修、また、電車・バス両事業課における部門間の連携・協力や、整備部門での知識・技術の習得・継承のための研修などを通じて安全運行を推進します。	○	研修計画に基づき、職員研修を実施した。(外部講師) ①乗務員接客研修(9月5日・6日 4回) ・受講者 77名(運転士の1/3(嘱託含む)) ・テーマ 運転業務における接客マナーについて ・講師 中木屋 民氏(㈱九州経済研究所) ②意識改革研修(11月26日～28日 6回) ・受講者 137名(全職員の1/3と嘱託の1/2) ・テーマ 働き方・働く人の改革を目指して ・講師 石走 啓一氏(㈱労務管理)	研修計画に基づき、職員研修を実施する。(外部講師) ①乗務員接客研修(9月 4回) ・受講者 約90名(運転士の1/3(嘱託含む)) ・テーマ 運転業務における接客マナーについて ②意識改革研修(11月 6回) ・受講者 約150名(全職員の1/3と嘱託の1/2) ・テーマ 働き方・働く人の改革を目指して
2	P9	①安全運行の推進 イ. ドライブレコーダーの積極的活用(拡充) ドライブレコーダー未設置のバス車両への設置を早急に完了し、記録された映像及び音声を基に、全ての事故の原因究明及び処理の迅速化を図るほか、事故後の乗務員の誘導・案内等の状況や、運行上の問題解決に必要な事実の確認などに利用するとともに、乗務員研修等で積極的に活用することで、安全意識や接客・接客の向上を図り、一層の安全運行に努めます。 [目標値] 市バス全車両におけるドライブレコーダーの設置率 (H27末)25% ⇒ (R1末)100%	◎	【電車事業課】※全車両に整備済(27年度完了) 事故の検証に活用し、速やかな解決につながった。 年3回の全体研修、年1回のグループ研修等で映像を活用し、安全意識の向上が図られた。 【バス事業課】※全車両に整備済(29年度完了) 事故発生時の記録映像を基に原因の検証を行ったほか、乗務員研修において記録映像を用いるなど積極的な活用を図り、運転士のより一層の安全意識の向上に努めた。 また、貸切観光バス(2両)について、運転者の挙動等を記録するための赤外線カメラを設置するとともに、26年度に購入した路線バス(10両)について、車両左後方を撮影するための4カメラとして追加で設置を行った。	引き続き、事故の検証や、職員研修等に活用する。
3	P9	①安全運行の推進 ウ. 施設機能の維持・向上(拡充) 電車の安定運行のため、軌道や架線を定期的に更新し機能を維持するとともに、メンテナンスしやすい環境整備を図ります。 また、バス施設の機能を向上させるため、自動洗車機の更新等を行うほか、給油体制の充実を図ります。	○	【電車事業課】 き電線改築更新については、事業実施に向けて設計業務委託を行った。また、谷山線電車線柱等調査業務委託の結果に基づき、更新に向けての課題等の整理を行った。 【バス事業課】更新済(29年度完了) ・北営業所の既存洗車機を解体撤去 ・浜町営業所の既存洗車機を北営業所へ移設 ・浜町営業所に移動式洗車機を新設 ・民間給油所との契約締結(2ヶ所目)	【電車事業課】 き電線改築更新については、工事実施に向けて、関係機関と協議を行う。 谷山線電車線柱については、事業実施に向けて、設計業務委託を行う。

(1)安全・快適なサービスの提供

番号	計画掲載	具体的方策 <small>◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中</small>	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
4	P9	①安全運行の推進 工. 作業環境の効率性向上(電車)(拡充) 車両整備や施設の維持管理を効率的かつ安全に行うため、老朽化が進んでいる旋盤等を更新し、作業の精度と効率性を高めます。	○	(車輪旋盤は29年度に更新済) 高所作業車の元年度購入に向けて仕様等を検討した。	高所作業車の発注を行う。
5	P9	①安全運行の推進 オ. 交差点及び車内事故防止の啓発 交差点や車内での事故を未然に防止するため、乗務員研修・教育の充実を図るとともに、停車時等における車内転倒事故などの防止について、利用者に啓発を行います。	○	【電車事業課】 ・運転士1人当たり年間3回以上の添乗指導を行い、また運転士1人につき年1回の技能訓練を行うなど、運転技術や接客サービスの向上に努めた。 ・ヒヤリハット情報等の収集を行い、改善できるものは速やかに改善し、安全運行の推進につなげた。 ・全体研修の中で、高齢者や障害者への理解を深めるとともに、ドライブレコーダーを利用した研修の中で、車内転倒の検証等を取り入れるなど事故防止にも努めた。 【バス事業課】 全乗務員を対象に事故防止等の研修を実施したほか、公営交通事業協会などが主催する研修会に運転士等を派遣するなどして、安全運転の推進を図った。 また、ヒヤリハット情報の収集や添乗評価の実施、日常点呼の際の注意喚起を行った。	【電車事業課】 引き続き、乗務員研修及び添乗指導、立哨等を行い、運転技術や接客サービスの向上に努め、車内転倒事故防止に向けた、運転技能訓練や車内アナウンスの励行等を行っていく。 【バス事業課】 全乗務員を対象に乗務員研修を年4回(4、7、10、12月)実施するとともに、公営交通事業協会等が主催するエコドライブなどの研修を受講する。 また、ヒヤリハット情報の収集、添乗評価の実施、日常点呼の際の注意喚起を行う。
6	P9	①安全運行の推進 カ. 運輸安全マネジメントの推進 運輸安全マネジメント委員会等を開催し、国のガイドラインに定められた14項目の取組を行うとともに、経営トップ(事業管理者)から現場まで一体となって安全管理体制を構築し、安全運行を推進します。	○	運輸安全マネジメント委員会、内部監査員養成研修会、内部監査、各事業課における研修会、訓練等を実施した。 ○運輸安全マネジメント委員会 ・第1回 平成30年5月31日開催 ・第2回 平成30年12月17日開催 ・第3回 平成31年3月26日開催 ○内部監査員養成研修会 ・平成30年12月20日、21日開催 ○内部監査 ・平成31年3月15日、18日実施 ○事故等調査委員会(開催なし) ○各事業課における研修会、訓練等(電車事業課) ・運転技能教育研修(6回) ・グループ研修(8回) ・消防局との合同脱線復旧訓練(1回) など (バス事業課) ・乗務員研修(4回) ・運行管理者研修(1回) ・整備主任者技術研修(1回) ・派遣研修(3回 ※県外) など	運輸安全マネジメント委員会、内部監査員養成研修会、内部監査、各事業課における研修会、訓練等を実施する。 ○運輸安全マネジメント委員会 ・第1回 令和元年5月下旬 ・第2回 令和元年10月中旬 ・第3回 令和2年3月中旬 ○内部監査員養成研修会 ・令和元年10月中旬 ○内部監査 ・令和2年1月中旬 ○事故等調査委員会(随時開催) ○各事業課における研修会、訓練等(電車事業課) ・運転技能教育研修(6回) ・グループ研修(6回) ・消防局との合同脱線復旧訓練(1回) など (バス事業課) ・乗務員研修(4回) ・運行管理者研修(1回) ・整備主任者技術研修(1回) ・派遣研修(3回 ※県外) など

(1)安全・快適なサービスの提供

番号	計画掲載	具体的方策	◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
7	P10	①安全運行の推進 キ. 安全衛生管理の推進 全職員が受診している定期健康診断等の結果が、「要治療」の者等に対する健康指導や相談などの徹底により、乗務員等の健康維持を図るとともに、安全衛生委員が行う職場点検等を通じた快適な職場環境の形成を促進することで、安全輸送と事故防止に繋がります。 [目標値] 健診結果が要治療等である者の健康相談への参加率 (H27末) 30% ⇒ (R1末)100%		○	①全職員(嘱託・臨時含む)を対象に定期健康診断を実施した。 ・実施時期 4月～6月 ・受診率 100%(341名受診) ・「要治療」等所見者 76名 ②定期健康診断の結果に基づき、毎月、健康相談を実施した。 ・上荒田局舎、新栄営業所、浜町営業所、それぞれ4回で、計12回実施した。 ・参加率 62.9%(95名参加)	①全職員(嘱託・臨時含む)を対象に定期健康診断を実施する。 ・実施時期 4月～6月 ・目標受診率 100%(約340名受診予定) ②定期健康診断の結果に基づき、毎月、健康相談を実施する。 ・上荒田局舎、新栄営業所、浜町営業所、それぞれ4回で、計12回実施する。 ・目標参加率 100%
8	P10	①安全運行の推進 ク. より安全な貸切バスサービスの提供(バス)(拡充) 国において事業用自動車の事故の削減を目的として普及を支援している公益社団法人日本バス協会による「貸切バス事業者安全性評価認定制度」の認定を取得し、安全性への信頼を高めるとともに、厳正な点呼やドライブレコーダーを活用した研修などを実施することで、より安全な貸切バスサービスの提供を行います。		○	平成30年4月下旬に申請を行い、9月に貸切バス事業者安全評価認定制度の認定(1ツ星)を受けた。 また、厳正な点呼やドライブレコーダーを活用した研修などを実施することで、安全な貸切バスサービスの提供に努めた。 ・研修実績(対象者1名) ※大型貸切バスを用いた貸切業務に従事する運転士を新たに選任したもの。	引き続き、厳正な点呼やドライブレコーダーを活用した研修などを実施することで、安全な貸切バスサービスの提供に努める。 ・研修予定あり(対象者1名)
9	P10	②快適で便利なサービスの提供 ア. バリアフリーの推進 (i) 超低床電車の導入(電車) 鹿児島市LRT整備計画に基づき、製造後60年以上過ぎた500形車両について、車両走行の安全性がより高く、バリアフリーに対応した超低床電車に更新します。 [目標値] 市電全車両における超低床車両の導入率 (H27末)24.1% ⇒ (R1末)30%		◎	超低床電車2両を導入した。 (30年度末導入実績17両、導入率30.9%)	—
10	P10	②快適で便利なサービスの提供 ア. バリアフリーの推進 (ii) 電停のバリアフリー化の推進(電車) 市道唐湊線の歩道改良工事に合わせ、唐湊電停を拡幅し、車いすでの乗降を可能にします。 また、他のバリアフリー未対応の電停についても、道路管理者と連携し、道路改良工事等の機会を捉えて拡幅などに取り組みます。		○	唐湊停留場の元年度の工事実施に向けて、関係機関と協議を行った。	唐湊停留場の工事を実施する。

(1)安全・快適なサービスの提供

番号	計画掲載	具体的方策	◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
11	P10	②快適で便利なサービスの提供 ア. バリアフリーの推進 (iii)低公害低床型車両の導入(バス) 路線バス車両については、製造後23年以上過ぎたものを基本に、車両の状況により更新の優先順位を設定し、高齢者や障害者をはじめ全ての利用者にやさしく、環境負荷の少ない低公害の低床バスへ計画的に更新します。 [目標値] 市バス全車両における低公害低床型車両の導入率 (H27末)60.8% ⇒ (R1末)78%		○	低公害低床型車両(バス)を10両導入した。 大型:10両(いすゞ) [目標値] H27末 60.8% 124両(ノンステップ ¹ 117+ワンステップ ⁷)/204両 ↓ H30末 73.0% 154両(ノンステップ ¹ 147+ワンステップ ⁷)/211両	自動車運送事業の抜本的見直しと併せて検討を行う。
12	P10	②快適で便利なサービスの提供 ア. バリアフリーの推進 (iv)リフト付き貸切観光バスの導入(バス)(新規) 障害者や高齢者など車いすを利用される方々に、より安全、快適に貸切バスをご利用いただくため、リフト付きバスを購入します。		○	施工監理を行った。 ※ハイデッカー車(HINO) ※29年度発注済(元年度までの債務負担行為設定)	引き続き施工監理を行う。 (令和2年3月納車予定)
13	P10	②快適で便利なサービスの提供 イ. 待合環境の整備 利用者の利便性向上を図るため、バス停上屋の整備を行うとともに、専用軌道の電停について、上屋及び広告看板の補修を行うなど、待合環境の向上に努めます。		○	【総合企画課】 専用軌道の上屋及び沿線の広告看板について、老朽化した板面の撤去、補修を行った。 ・時期:平成31年1月 ・電停:谷山～南鹿兒島駅前間の7電停 ・結果:27ヶ所撤去、6ヶ所補修 【電車事業課】 南鹿兒島駅前停留場(上り)の上屋改修を行った。 【バス事業課】 附属小前(下り)バス停上屋の建替えを行った。	【総合企画課】 継続して実施する。 【電車事業課】 南鹿兒島駅前停留場(下り)の上屋改修を行う。 【バス事業課】 紫原四丁目(上り)バス停上屋の建替えを行う。
14	P11	②快適で便利なサービスの提供 ウ. 軌道改良の推進(電車) 軌道交差点等について、分岐器等の交換や軌道改良などにより、電車走行の安全性を確保し利用者の乗り心地の向上を図るとともに、車両横断時の騒音及び振動の軽減を図ります。 また、道路交差点内の軌道敷についても道路管理者と協議し、改良に取り組めます。		○	郡元電停交差点軌道改良事業により、中郡側の分岐器の交換と、中郡と郡元間及び中郡と涙橋間の曲線部を接続軌道ブロック構造に変更した。 渡り線その他分岐器更新事業実施に向けた実施設計業務及び関係機関との協議を引続き行った。	郡元電停交差点軌道改良事業により、涙橋側の分岐器の交換と、涙橋と郡元間の曲線部及び涙橋と中郡間の曲線部を接続軌道ブロック構造への変更を行う。 渡り線その他分岐器更新事業実施に向けた実施設計業務及び関係機関との協議を行う。

(1)安全・快適なサービスの提供

番号	計画掲載	具体的方策 <small>◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中</small>	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
15	P11	②快適で便利なサービスの提供 工. 鹿児島駅前停留場の整備(電車)(拡充) 鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業によるJR鹿児島駅舎建替えにあわせた電停の整備に取り組むことで、交通結節の機能強化と利便性の向上を図ります。	○	実施設計業務委託を実施した。 事業実施に向けて課題等の整理のため、関係機関協議等を行った。	施設の変更に伴う認可申請を行う。 仮設工事等の事業に着手する。
16	P11	②快適で便利なサービスの提供 オ. 全国交通系ICカード利用の検討(新規) 観光客等の利便性向上のため、市電や市バスでのSuica等の利用を可能とすることについて、IC乗車カードシステムを運用している民営バス事業者との一体的な導入の実現性や、費用対効果などを総合的に勘案しつつ、関係機関等と協議し、全国交通系ICカードとの連携システムの構築を検討します。	▲	全国交通系ICカードと連携する「片利用」の導入について情報収集等を行ったほか、全国的に導入が模索されているQRコードをはじめとする新技術の情報収集等を行った。	引き続き「片利用」や「QRコード」等の導入について情報収集等を行う。
17	P11	②快適で便利なサービスの提供 カ. 案内表示の充実(拡充) 一般利用者や観光客など全ての人が利用しやすくなるように、車内や停留所等に分かりやすい路線図などの設置や、外国語表記の充実などに取り組めます。	○	【総合企画課・電車事業課】 ・車内の路線図、停留場案内表示のリニューアルを実施(29年度完了) 【バス事業課】 サクラジマアイランドビューの全バス停に、訪日外国人向けの「注意書」を貼付するとともに、周遊バス乗務員が外国人に解りやすく案内できるよう多言語の指差し会話シートを作成し、利便性の向上を図った。 また、訪日外国人の利用が多いカゴシマシティビューの各バス停に、他社の一日乗車券での乗り間違いや利用間違いを防ぐため、多言語による案内表記を行った。	【バス事業課】 訪日外国人が多い中央駅から水族館にかけてのバス停において、多言語による案内表記が可能かどうか検討を行う。
18	P11	②快適で便利なサービスの提供 キ. 音声合成放送装置の更新(電車)(拡充) 老朽化した音声合成放送装置を更新し、安定した運行を確保するとともに、車内案内放送をリニューアルし外国語に対応するなど、著しく増加している外国からの観光客を含め、すべての利用者が快適に利用できる環境を整備します。	◎	25両分の音声合成放送装置を更新した。 ※29年度は26両分を更新済	—

(1)安全・快適なサービスの提供

番号	計画掲載	具体的方策	◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
19	P11	②快適で便利なサービスの提供 ク. 定期観光バスの見直し(バス) 世界文化遺産や日本ジオパークという観光資源を生かし、利用者増と効率的な運行を図るため、定期観光バスについて、カゴシマシティビューやサクラジマアイランドビューとの一体的な運行コースの再編成等を検討します。		○	「西郷どん大河ドラマ館」の開館に合わせて、定期観光バスの運行経路の変更を行った。 変更期間:平成30年1月13日～平成31年1月14日	引き続き、利用者増と効率的な運行が図れるよう検討を行う。 (サクラジマアイランドビューにおいて、一部ルート変更(砂防センター経由)が実施される中で、桜島を巡る定期観光バスとの一体的な編成等が行えないか検討する。) ※アイランドビューダイヤ改正 平成31年4月1日
20	P11	②快適で便利なサービスの提供 ケ. ICTの一層の活用 時刻表や遅延情報等をスマートフォンで提供するバスロケーションシステムなど、ICTの一層の活用を研究します。		○	スマートフォン等で市電・市バスの現在位置等を確認できるロケーションシステムを導入し、試験運用を開始した。 市電:55両 市バス:199両	・市電運行管理画面改修業務の実施 ・さらなるICTの活用方策を検討
21	P11	②快適で便利なサービスの提供 コ. インバウンド(訪日外国人観光客等)への対応(拡充) 電車の案内表示及び車内案内放送等を外国語に対応させるほか、会話ができない場合でも乗務員等との意思の疎通が可能となるよう、観光電車やカゴシマシティビュー等に、指差し会話のシート等を準備するなど、増大する訪日外国人観光客等が、本市の観光資源である電車やカゴシマシティビュー等をより快適に利用できるよう環境を整えます。 また、観光電車や定期観光バスのWi-Fi環境により、局ホームページを経由して外国語の観光案内ページへリンクさせることで、景勝地の写真や多言語での観光地の情報を提供します。		○	【総合企画課】 ・全37電停の案内表示リニューアル(29年度完了) ・局HPを経由した観光情報の提供(29年度～) 【電車事業課】 ・音声合成放送装置を更新(英語での音声案内)(29年度完了) 【バス事業課】 ・サクラジマアイランドビューの全バス停に、訪日外国人向けの「注意書」を貼付するとともに、周遊バス乗務員が外国人に解りやすく案内できるよう多言語の指差し会話シートを作成し、利便性の向上を図った。 また、訪日外国人の利用が多いカゴシマシティビューの各バス停に、他社の一日乗車券での乗り間違いや利用間違いを防ぐため、多言語による案内表記を行った。	【バス事業課】 訪日外国人が多い中央駅から水族館にかけてのバス停において、多言語による案内表記が可能かどうか検討を行う。

(2) 運行の効率化

番号	計画 掲載	具体的方策 <small>◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中</small>	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
22	P12	①バス運行の効率化 ア. 抜本的な路線、ダイヤの見直し(バス) (拡充) 乗客需要や経済性を踏まえつつ、全路線を対象として、IC乗車カードシステムの乗降データや交通局モニターからの意見・提言、利用者アンケート等により、路線バスの利用状況やニーズ等を調査・分析し、定期的に経路やダイヤ等を見直すとともに、着手できるものから路線の統廃合などに取り組みます。 [目標効果額] (H29)1,050千円 (H30)2,100千円 (R1)2,100千円	○	各路線の問題点を把握しダイヤ改正を行った。 ①利用状況に合わせ運行便数を減便 ・桜島60番線及び70番線 [平成30年7月1日] ・14番(谷山線)、25番(唐湊線)、 33番(慈眼寺・与次郎線) [平成30年11月1日] ②バス停新設に伴う運行経路の見直し ・27番(県庁・与次郎線) [平成30年10月1日]	・所要時分や運行経路の見直しを行う。 11番線(鴨池冷水線) 21番(永吉線) [実施予定日:令和元年秋頃] ・谷山駅前広場整備に伴う広場への乗り入れ検討を行う。 14番(谷山線) 33番(慈眼寺・与次郎線)
23	P12	①バス運行の効率化 イ. 共同運行解消の検討(バス) (新規) 民営バス事業者との共同運行については、単独運行より赤字削減が図られたものの、黒字化までには至っていないことから、より一層の経営改善を図るため、共同運行を解消することを検討します。 [目標効果額] (H29)0千円 (H30)3,277千円 (R1)6,554千円	▲	自動車運送事業の抜本的見直しと併せて検討を行う。	自動車運送事業の抜本的見直しと併せて検討を行う。
24	P12	①バス運行の効率化 ウ. 管理の受委託の実施(バス) 運行経費の削減を図るため、管理の受委託を実施いたします。 また、安全運行や利用者サービスの維持・向上に資するため、管理の受委託評価委員会からの指摘などを踏まえ、継続的に指導・監督を行い、受託者の業務改善を促します。	○	受託者が行う乗務員研修において総括的な指導を行うとともに、事故・苦情等に関して受託者と情報の共有化を一層強化するなど、安全運行に対する取り組みと利用者サービスの向上が図られるよう指導・監督を行った。 ・委託期間 H29.4.1～R4.3.31 ・委託路線数 北営業所管内:18路線 桜島営業所管内:2路線 ・委託事業者 南国交通株式会社 ・委託料 832,921千円	30年度に引き続き同様の取り組みを行う。
25	P12	②電車運行の効率化 ア. 利用実態に合わせたダイヤの検討(電車) 市街地を運行する基幹的な交通機関として、今後とも、利用者ニーズを踏まえながら適正な運行間隔となるようダイヤ編成に取り組みます。	○	鹿児島駅前停留場の整備を見据え、鹿児島駅前停留場と郡元停留場及び谷山停留場において、運転時分調査を行った。	引き続き、鹿児島駅前停留場の整備を見据えて、採算性を勘案しながら、利用者ニーズに合ったダイヤを検討する。

(3) 経営基盤の充実・強化

番号	計画 掲載	具体的方策	◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
26	P13	①増収対策 ア. 新たな定期券制度等の創設(新規) 市電について、区間を指定せず全線で乗降車可能となる通勤フリー定期券等を創設します。 また、市電・市バスについて、高校生の夏休み期間における全線フリー乗車券やシニア定期券の創設などにより、定期券の販路拡大及び販売推進等に取り組みます。 [目標効果額] (H29)2,653千円 (H30)2,653千円 (R1)2,653千円		○	(1)市電の通勤定期券等の全線化に伴い、大人料金を改定した。(H30.1～) ○発売実績 H30年度: 29,378件 276,386千円 H29年度: 28,853件 245,760千円 ○増収額 10,465千円 (2)65歳以上を対象とする「シニア定期券」を発売し、新たな需要の掘り起こしを図った。(H30.1～) ○通用区間 電車:全線 バス:必要とする区間 ○料金 通学定期券と同額 ○発売実績 電車:828件 5,197千円 バス:817件 6,177千円 ○効果額 3,412千円 (3)夏休み期間中のオープンキャンパスや部活動の行き帰りなどにおける市電・市バス利用を促進するため、昨年に引き続き「夏休みチャレンジパス」の対象を高校生まで拡充した。(H29.7～) ○料金:4,000円/枚 ○通用期間:7/21～9/2(44日間) ○発売実績:1,807枚 7,228,000円	継続して実施する。

(3) 経営基盤の充実・強化

番号	計画 掲載	具体的方策	◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
27	P13	①増収対策 イ. 広告収入の拡大(拡充) 広告効果が高く、魅力ある媒体を新たに企画・提供するとともに、機会を捉えて期間限定の広告料割引キャンペーンを実施するなど、広告主の掲出意欲を高めることで、広告収入の拡大を図ります。 [目標効果額] (H29)1,716千円 (H30)8,917千円 (R1)13,633千円		○	(1)情報交換や新規媒体設定の参考とするため、指定広告取次人との意見交換会を実施した。(24者実施) (2)電車の新たな広告媒体を設定した。 ・7000形車体広告(中間)(H30.9～) ・7000形パートラッピング(H30.9～ 実績:332,100円) ・専用軌道各電停の上屋等(H31.1～) 媒体:谷山電停支柱巻き広告、谷山電停壁面広告、待合所看板広告(脇田電停、宇宿一丁目、二軒茶屋) ・7500形車内広告(H31.3～) 媒体:車内広告貸切(ジャック) 対象:一次車両2両(7501・7502号) (3)車体広告や掲出頻度の少ない媒体を対象に、期間限定のキャンペーンを実施した。 ・電車車体広告(7000形・1000形)の長期継続契約(2年以上)について、①取次人の割引率拡大(23%→30%)、②下地・復元塗装料の免除(局負担)を実施 ・電車・バス車内の掲出頻度の少ない媒体を対象とした取次人割引率の拡大 実績:電車車内側面10枚 24,300円 ・前年度実施キャンペーンの継続掲出分(9000形 4両) 実績:6,978千円 (4)バス車外広告掲出枠の買取枠を拡大した。 ・対象車両数 40両⇒53両、買取枠 60枠⇒97枠 実績:5,508千円 (5)局が製作すべき路線図等を広告媒体として提供し、当該広告料で製作費用を賄い、経費の節減を図った。 ・ICカード乗車券プラスチックケース 20,000枚 ・市電路線図 30,000枚 ・局オリジナルカレンダー 3,000部	(1)引き続き新たな広告媒体の検討を行う。 (2)車体広告に限らず、これまでにない新たなキャンペーンを実施する。 (3)掲出頻度の少ない既存の媒体について、広告掲出が見込めるよう、料金等の見直しを行う。 (4)(5)継続して実施する。

(3) 経営基盤の充実・強化

番号	計画 掲載	具体的方策 ◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
28	P13	①増収対策 ウ. 観光業界との連携による乗車券等の販売推進(拡充) 観光をはじめとする交流人口の拡大が見込まれることから、観光コンベンション協会等と連携した利用促進PRに努めるとともに、一日乗車券等の販路拡大や販売推進に取り組めます。	○	(1)市内のホテルや旅行代理店等への委託販売を勧奨し、新規委託販売契約を締結した。 ・新規委託販売店数 7件 ・総委託販売店数(H30末現在) 102件 ・効果額(新規委託販売店販売実績等)1,149千円 (2)鹿児島市観光サイト「よかとこかごんまナビ」にカゴシマシティビューや利便性の高い「一日乗車券」の情報等を掲載したほか、隣接市の教育委員会を訪問し、同乗車券のPRを行った。	引き続き市内のホテル等を中心に委託販売に係る勧奨を行い、乗車券等の販路拡大を図るとともに、県内の教育委員会等へ対する一日乗車券等の利用促進へ向けた働きかけを行う。
29	P13	①増収対策 エ. グッズ販売の推進(拡充) 交通局のイメージアップと市電・市バスの利用促進等を図るため、オリジナルグッズの制作・販売などを行います。 販売推進等については、新規委託店の開拓や意匠契約及び受注販売による効率的な製作をさらに推進するとともに、大学等との連携により、話題性豊かで広く愛される商品の企画を検討するなど、新たな販路拡大に向けて積極的に取り組めます。 [目標効果額] ※ウ・エ合計 (H29)665千円 (H30)1,010千円 (R1)1,354千円	○	新たなオリジナルグッズとして、「電車型えんぴつ削り」を製作するとともに、イベント等での出張販売を行うなど、増収に向けた取り組みを行った。 [電車型えんぴつ削り・目覚まし時計の販売実績] 販売額: 1,112,000円 費用額: 887,722円 収益額: 224,278円	引き続き、新たなオリジナルグッズの企画・製作を行うとともに、販路拡大と増収を図るため、委託販売店の拡充に努める。
30	P13	①増収対策 オ. 貸切電車の利用促進(拡充) 平成28年度にリニューアルしたイベント電車の新たな魅力を積極的に発信するとともに、「かごでん」や「でんでん」など特色ある車両を含めてイベント企画事業者等へ重点的に周知・広報を行い、各種イベント等での利用を促進することにより増収を図ります。	○	局HP、市民のひろば(H30.9月号掲載)、市政広報番組等を活用したPRを行うとともに、市内の小・中・高校及び近隣市(日置・始良・垂水)教育委員会を通じた管内小・中学校に対する利用促進用の案内文等を配布し、広報・周知を図った。 【貸切電車利用実績】 H30年度:272件 8,666人 H29年度:396件 11,460人	今後も引き続き周知・広報に努めるとともに、イベント企画事業者等へも重点的に周知・広報を行っていく。

(3) 経営基盤の充実・強化

番号	計画掲載	具体的方策 ◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)																														
31	P13	①増収対策 カ. イベント時の臨時運行 サマーナイト大花火大会をはじめとする各種イベント等の集客状況の把握に努め、臨機応変に増車の対応を行うことにより増収を図ります。	○	【電車事業課】 イベント情報等の収集に努め、適宜、増車対応等を行った。 ・照国神社六月灯 21便 約 6,600人 ・MBC夏祭り 24便 約 2,600人 ・サマーナイト大花火大会 31便 約11,700人 ・センター試験 1便 約 350人 ・鹿児島大学入学試験 3便 約 1,000人 ※おはら祭、かごしまマラソンについては、臨時運行(コース、ダイヤ)で対応 【バス事業課】 イベント情報等を早期に収集し、イベント企画会社等と密に連携を図りながら、増車対応等を行った。 ・鹿児島アリーナでのイベント(新日本プロレス、長瀬剛、格闘技「敬天愛人」、大相撲鹿児島場所) 118便 約 5,900人 ・サマーナイト大花火大会 198便 約 8,500人 ・市民文化ホールでのイベント 126便 約 6,000人 計442便 約20,400人	【電車事業課】 前年度と同様にイベント情報等の収集に努め、適宜、増車対応等を行う。 【バス事業課】 サマーナイト花火大会など定例行事のほか、鹿児島アリーナ等で開催されるコンサート等においても臨時運行を実施する。																														
32	P13	①増収対策 キ. 保有資産の活用 バス・電車事業の運行業務に必要としない資産については、駐車場用地等として随時貸付を行います。	○	鴨池二丁目局有地や脇田変電所住宅跡地など、引き続き、駐車場などとして貸し付け、資産活用を行った。	鴨池二丁目局有地や脇田変電所住宅跡地など、引き続き、駐車場などとして貸し付け、資産活用を行う。																														
33	P14	①増収対策 ク. 資金の運用(新規) 交通局跡地電車通り側用地の売却に伴い、平成29年度以降、一時的に資金状況が好転すると見込まれることから、その資金を効果的に運用することにより、新たな収入の確保に努めます。 [目標効果額] (H29)250千円 (H30)150千円 (R1)75千円	○	資金運用の状況(30年度実績) <table border="1" data-bbox="1077 1043 1608 1278"> <tr> <td rowspan="3">1</td> <td>期間</td> <td>30年3月30日～30年9月28日(182日)</td> </tr> <tr> <td>預金額</td> <td>10億円</td> </tr> <tr> <td>利率</td> <td>0.18%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>利息額</td> <td>897,534円</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2</td> <td>期間</td> <td>30年9月28日～31年3月29日(182日)</td> </tr> <tr> <td>預金額</td> <td>6億円</td> </tr> <tr> <td>利率</td> <td>0.18%</td> </tr> <tr> <td>利息額</td> <td>538,520円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>利息額合計</td> <td>1,436,054円</td> </tr> </table>	1	期間	30年3月30日～30年9月28日(182日)	預金額	10億円	利率	0.18%		利息額	897,534円	2	期間	30年9月28日～31年3月29日(182日)	預金額	6億円	利率	0.18%	利息額	538,520円		利息額合計	1,436,054円	元年度も引き続き、支払いに充てる予定のない資金を効率的に運用する。 元年度資金運用 <table border="1" data-bbox="1630 1171 2130 1278"> <tr> <td>期間</td> <td>31年4月1日～元年9月30日(182日)</td> </tr> <tr> <td>預金額</td> <td>6億円</td> </tr> <tr> <td>利率</td> <td>0.18%</td> </tr> <tr> <td>利息額</td> <td>538,520円</td> </tr> </table>	期間	31年4月1日～元年9月30日(182日)	預金額	6億円	利率	0.18%	利息額	538,520円
1	期間	30年3月30日～30年9月28日(182日)																																	
	預金額	10億円																																	
	利率	0.18%																																	
	利息額	897,534円																																	
2	期間	30年9月28日～31年3月29日(182日)																																	
	預金額	6億円																																	
	利率	0.18%																																	
	利息額	538,520円																																	
	利息額合計	1,436,054円																																	
期間	31年4月1日～元年9月30日(182日)																																		
預金額	6億円																																		
利率	0.18%																																		
利息額	538,520円																																		

(3) 経営基盤の充実・強化

番号	計画掲載	具体的方策	◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
34	P14	①増収対策 ケ. 料金のあり方等についての研究(新規) 将来にわたり市交通事業を継続し、公営交通事業者としての役割を果たすため、交通局の厳しい経営状況や、消費税率の改定が見込まれることなどを勘案し、料金のあり方等について研究します。	○	○	令和元年10月の消費税増税に向けて、国の料金改定に対する処理方針等を踏まえ検討を行った。 市電・市バスの乗車料については、内税方式・10円単位で規定しているが、国の処理方針に基づき、税抜運賃を基準額として算定した結果、今回の2%増税では現在の運賃額の範囲内に収まるため、消費税増税に係る運賃の改定は行わないこととした。	定期観光バスの料金等については、入園料等の付帯する料金の値上げ状況も考慮する必要があり、引き続き消費税増税に向け対応する。 市電・市バスの運賃については、国の料金改定に対する処理方針等も踏まえながら、自動車運送事業の抜本的見直しと併せて検討を行う。
35	P14	②経費節減 ア. 人件費の抑制 (i) 適正な人員配置等 業務・組織体制の見直しや運行の見直し等による業務量の変動に応じ、適正な人員配置を行うとともに、市長事務部局等への出向について、関係部局と協議し、人事交流を行います。 職員の退職等に対しては、正規職員のほか、再任用職員及び嘱託職員の採用により補充を行い、業務量に対する欠員が生じないように人員を配置します。	○	○	①新規採用職員 6名 ・30年4月1日付 電車整備士 2名、電車運転士 4名 ・30年10月1日付 電車運転士 5名 ②31年度の人事交流について、市長事務部局と協議を行った。	①組織体制の見直しを検討する。 ②新規職員の採用 ・31年4月1日付 電車運転士 5名、電車整備士 1名 ③令和2年度の人事交流について、市長事務部局と協議を行う。
36	P14	②経費節減 ア. 人件費の抑制 (ii) 時間外勤務手当等の縮減 業務の効率化及び見直しを行うことで時間外勤務手当等の縮減を図ります。	○	○	業務の効率化等により時間外勤務の削減に取り組んだ。 ①年次有給休暇等の計画的使用の促進及び適正な時間外勤務等について(4月10日通知) ②時間外勤務実績(30年度) ・バス運転士等 時間数	業務の効率化等により時間外勤務の削減を図る。 ①年次有給休暇等の計画的使用の促進及び適正な時間外勤務等について(4月12日通知) ②各課における時間外勤務の状況把握

	時間数			1月当たりの時間数/人		(延人数)		
	29年度	30年度	増減	29	30	増減	29	30
職員	49,050	48,088	▲ 962	43.0	42.8	▲ 0.2	1,140	1,123
嘱託職員	22,736	22,816	80	27.9	28.2	0.3	816	809
計	71,786	70,904	▲ 882	—	—	—	—	—

・その他職員 時間数(職員のみ)			
	29年度	30年度	増減
総合企画課	3,302	3,005	▲ 297
総務課	2,124	2,073	▲ 51
経理課	1,539	2,349	810
関連3課計	6,965	7,427	462
電車事業課	58,808	54,765	▲ 4,043
バス事業課	2,769	2,993	224
総計	68,542	65,185	▲ 3,357

(3)経営基盤の充実・強化

番号	計画 掲載	具体的方策	◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
37	P14	②経費節減 ア. 人件費の抑制 (iii)希望退職の実施 早期退職者を募集し、年齢構成の若返りを促進します。 [目標効果額] ※(i)(ii)(iii)合計 (H29)35,218千円 (H30)29,056千円 (R1)5,476千円		○	11月に早期退職者の希望調査を実施した。 ・募集期間 11月1日～11月26日 ・希望者1名 ※過年度における希望退職者数 28年度中の1名	11月に早期退職者の希望調査を実施する。
38	P14	②経費節減 イ. 施設長寿命化計画の策定(新規) 交通局が所管する施設について、修繕・取替えに係る費用の縮減を図りつつ、各施設の長寿命化を図り、安全性・信頼性を確保するとともに、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図ります。		○	「鹿児島市交通局施設等維持管理(長寿命化)計画(仮称)」の各施設データや点検結果データ等の情報整理等を行うための業務委託経費の予算計上を行った。	計画策定委員会・幹事会、WG会議の開催及び対象施設等のデータ整理・分析・集約等の業務委託を行い、計画を策定する。
39	P14	②経費節減 ウ. 修繕費等の縮減 ICカードリーダーライトや音声合成放送装置など、バス車両更新に伴い保管できるものについては、部品などを含めできる限り再利用に努めるとともに、電車の板金塗装や窓ガラス研磨など、局内で安価に対応できるものは直営で実施するなど、今後とも費用対効果を勘案し、修繕費等の縮減に努めます。 [目標効果額] (H29)4,940千円 (H30)4,940千円 (R1)4,940千円		○	電車の板金塗装や窓ガラス研磨を局職員により実施した。 ・板金塗装 15両(5,965千円) ・窓ガラス研磨 29両(2,900千円)	引き続き、電車の板金塗装や窓ガラス研磨を局職員にて実施する。
40	P15	②経費節減 エ. 光熱水費など管理経費の縮減(拡充) 全職員に経費節減意識を徹底することにより、鹿児島市地球温暖化対策アクションプラン(事務事業編)の数値目標に準じて、光熱水費及びコピー用紙購入量の縮減に努めます。 また、局舎及びバス整備工場の電力供給を競争入札で契約することにより、さらに電気料金の縮減に取り組みます。 [目標効果額] (H29)356千円 (H30)558千円 (R1)721千円		○	【経理課】 市の節電対策を踏まえ、局独自の節電対策を各課に依頼した。 ①冷房の設定温度(28℃)、暖房器具使用時の室内温度(19℃)の徹底 ②始業前、昼休み及び離席時等の消灯を徹底 ③コピーの使用枚数の削減 など 【総務課】 局舎及びバス整備工場の電力供給を競争入札で契約した。 ※契約(供給)期間: 平成30年8月1日～令和元年7月31日	【経理課】 引き続き、市の節電対策を踏まえ、局独自の節電対策を各課に依頼する。 ①冷房の設定温度(28℃)、暖房器具使用時の室内温度(19℃)の徹底 ②始業前、昼休み及び離席時等の消灯を徹底 ③コピーの使用枚数の削減 など 【総務課】 引き続き、局舎及びバス整備工場の電力供給を競争入札で契約する。 ※令和元年8月1日～令和2年7月31日

(3) 経営基盤の充実・強化

番号	計画掲載	具体的方策	◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
41	P15	②経費節減 オ. エコドライブの徹底 (i) アイドリングストップの徹底(バス) アイドリングストップ等を活用し、エコドライブに努めることにより、燃料費の削減を図ります。 [目標値] バスの燃費 (H27末)2.297km/L ⇒ (R1末)2.320km/L	○	○	目標の2.320km/Lに対し2.257km/Lの結果となった。(△0.063km/L) ※乗務員全体研修にて改めてアイドリングストップの必要性を促し、出庫の際に呼びかけを徹底し、乗務員一人一人の意識改革に繋がるよう周知を図った。	引き続き、エコドライブについての取り組みを行う。
42	P15	②経費節減 オ. エコドライブの徹底 (ii) 惰行運転の徹底(電車) 惰行運転の徹底により、電力使用量を軽減し経費の節減を図ります。	○	○	ノッチオフ表示板設置による指定された場所に限らず、ノッチオフによる惰行運転に努めた。	引き続き、ノッチオフによる惰行運転に努める。
43	P15	③組織の活性化 ア. 活力ある職場づくり 職員がやりがいや達成感を持ち、さらに意欲的な接客サービスに繋がるように、優れた取組を行った職員の表彰や、職員提案制度を実施するとともに、技能労務職から技術職等への任用を推進し、職場の活性化を図ります。	○	○	【総務課】 職員表彰を実施した。(7月2日) ・永年勤続8名 ・接客・案内マナー賞8名 ・無事故記録賞10名 ・マスタードライバー認定3名 【総合企画課】 経営の健全化につながる取組等のほか、29年度から新たに業務改善実績について募集した。 ・募集期間:平成30年7月2日～7月31日 ・提案件数:局職員12件、市職員等20件 ・業務改善:局職員8件 ・表彰:業務提案:2件(局職員)、業務改善:8件(局職員)、アイデア:1件(市職員) ・提案内容: バスの乗り方の案内チラシ作成、定期券の事前申込み(FAX/メール)サービスなど	【総務課】 職員表彰を実施する。(7月1日) 【総合企画課】 継続して実施する。 (募集期間:7月(予定))
44	P15	③組織の活性化 イ. 人事評価制度の実施 職員の資質・能力の向上及び意欲を高めることを目的とした人事評価制度を全職員に実施します。	◎	◎	鹿児島市交通局人事評価実施規程に基づき実施した。 技能労務職員(全員)について本格実施した。	— ※評価は継続して行う

(4) 公営交通事業者としての役割を踏まえた事業推進

番号	計画掲載	具体的方策 ◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
45	P16	①自動車運送事業の見直し ア. 自動車運送事業の抜本的見直し方策の検討(新規) 「協議の場」での協議内容等も踏まえ、将来に向けて、市バス事業の抜本的な見直しの方策を検討します。	○	平成30年3月の経営審議会答申を受け、決定した局の方針に基づき、事業縮小に向けた路線移譲の具体案策定に取り組むとともに、民間事業者との協議を進めた。	引き続き、民間事業者との協議を行い、時期や方法等も含めた具体的な移譲案をまとめるとともに、移譲に係る準備を進める。
46	P16	①自動車運送事業の見直し イ. 公共交通不便地における生活路線の維持・確保 市交通政策部門と積極的に連携し、鹿児島市公共交通ビジョンに基づく公共交通不便地対策等により運行している区域などについて、「あいばす」を運行し、生活路線の維持・確保を図ります。	○	(あいばす運行) ・小原地域29年1月5日 運行開始 火・木・土は10本 月・水・金は2本 計3,802人 ・小野・伊敷地域29年2月8日 運行開始 月・水・金は7本 火・木・土は2本 計1,154人 ※小原、小野・伊敷地域ともに12月31日から1月3日の期間運休 ※敬老・友愛バス利用者を含む	引き続き実施する。
47	P16	②市のまちづくりとの連携 ア. 観光施策との連携 (i) 桜島フェリーとの連携 世界文化遺産や日本ジオパーク登録等により、国内外からの観光客等の増加が見込まれることから、桜島フェリー(市船舶局)との相互連携を継続し、観光客等の周遊性の向上と利用促進を図ります。	○	(1)鹿児島市営バス・電車・フェリー共通利用券(CUTE)を販売した。(本局、市役所前、谷山電停及びイオン鹿児島鴨池店乗車券発売所、桜島営業所) (2)船舶局でサクラジマアイランドビューー日乗車券の委託販売を実施した。 ・船舶局販売実績 大人券:4,418枚 小児券:172枚 (3)オリジナルグッズの相互販売を実施した。 ・販売実績 船舶局:16個 6,100円 交通局:4個 3,300円	引き続き、CUTEの交通局各乗車券発売所での販売、サクラジマアイランドビューー日乗車券の船舶局での委託販売を実施する。 市電・市バス及び桜島フェリーを活用した観光コースをわかりやすく示すPRポスターの作成を検討する。
48	P16	②市のまちづくりとの連携 ア. 観光施策との連携 (ii) 観光電車の運行(拡充) 観光客の利用頻度が最も高い鹿児島中央駅前電停を発着点として観光電車「かごでん」を運行します。 今後とも、観光ボランティアによる観光名所やお土産情報など地元ならではの車内案内を行うとともに、運行経路の見直しや「かごでん」を利用した新たなイベントの企画など、観光電車としての魅力をさらに増やすことで利用者の増加を図ります。 [目標値] 観光電車の年間利用者数 (H27末)3,053人 ⇒ (R1末)3,350人	○	H30年度観光電車「かごでん」の運行実績 ・定期運行 1,985人/251便(平均約8人) ・イベント企画 387人/18便 ・貸切運行 213人/9件 計2,585人	引き続き、観光電車「かごでん」を運行するとともに、機会あるごとにPRに努め、観光電車としての魅力をさらに増やすことで利用者増を図る。

(4) 公営交通事業者としての役割を踏まえた事業推進

番号	計画掲載	具体的方策 ◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
49	P16	②市のまちづくりとの連携 ア. 観光施策との連携 (iii) 観光客等へのPR ゴールデンウィークなどの大型連休や観光シーズンをとらえ、観光客やホテル等を対象に市電・市バスの利用案内や分かりやすい路線図等の配布を行うなど、利用促進に努めます。	○	(1)GW期間中に鹿児島中央駅前電停で乗車券等の出張販売を行った。 ・実施日:5月3～5日 (2)市電・市バスがより利用しやすいものとなるよう、観光案内所やホテルなどの宿泊施設に「市電・市バス路線案内図」を配布した。 (3)観光客等が一日乗車券等を購入しやすくなるよう、新たに7施設と乗車券委託販売契約を締結した。	引き続き実施する。
50	P16	②市のまちづくりとの連携 イ. 環境施策との連携 (i) 環境に配慮した取組のPR 低公害バスの導入や軌道敷内芝生の維持管理、市電のブレーキ時における電気の再利用など、環境に配慮した取組を広くPRすることにより、利用促進に繋がります。	○	・環境未来館においてPRパネル(排出ガス規制適合バスの導入など)を展示した。(21年10月から常設) ・局外のイベントにおいて、低公害車やPRパネルの展示を行った。 イベント名:キッズ未来フェスタ 日時:平成30年8月4～5日 場所:イオンモール鹿児島	・環境未来館での常設展示を引き続き行う。 ・他施設で開催されるイベント等に、低公害車の展示や環境に配慮した取組のPRパネルの掲示を行う。
51	P17	②市のまちづくりとの連携 イ. 環境施策との連携 (ii) エコ通勤推進活動との連携 地球温暖化を防止するために鹿児島都市圏地球温暖化防止交通対策協議会が実施しているエコ通勤推進活動に参加、協力し、公共交通機関の利用促進に努めます。	○	鹿児島都市圏地球温暖化防止交通対策協議会を通じて、関係団体等との連携を図り、エコ通勤特別割引制度に協力し、公共交通機関の利用促進に努めた。 ※エコ通勤特別割引延べ利用者数(平成21年11月1日～31年3月31日) 市電:1,531人 市バス:8,918人	エコ通勤特別割引制度に引き続き協力し、公共交通機関の利用促進に努める。
52	P17	②市のまちづくりとの連携 ウ. 福祉施策との連携 今後とも、低床車両の積極的な導入のほか、敬老・友愛バス制度や運転免許の自主返納に伴う市電・市バスの半額制度への協力、シニア定期券の創設など、高齢者や障害者が気軽に利用できる環境を整え、利用促進に繋がる取組を進めます。	○	お達者クラブ等から要請を受けた市政出前トークにおいて、敬老バス制度や一日乗車券、シニア定期券などを活用することで市電・市バスをお得にご利用いただけることを紹介した。 市政出前トーク実施件数:5件	引き続き、市政出前トーク等の機会をとらえ、敬老バス制度や低床車両の導入など、高齢者も利用しやすい市電・市バスをPRし、利用促進を図る。

(4) 公営交通事業者としての役割を踏まえた事業推進

番号	計画掲載	具体的方策 <small>◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中</small>	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
53	P17	②市のまちづくりとの連携 工. 災害時の迅速な対応 鹿児島市地域防災計画に基づき、台風等の風水害や桜島での火山爆発などの災害時において、市災害対策本部における各対策部の連携による市バスを用いた避難への迅速な対応など、交通局に課せられた役割を果たします。	○	【災害対応実績】 ・7月7日 豪雨による避難者輸送(竜ヶ水地区) ・7月8・9日 土砂崩れによる避難者輸送(桜島古里地区) ・9月29日 台風による避難者輸送(竜ヶ水地区) 【訓練等実績】 市災害対策本部における各種訓練等への参加や局内での訓練等を実施した。 ○市災害対策本部関係 ・桜島火山爆発総合防災訓練 ・原子力防災訓練 ・国民保護(テロ)共同図上訓練 など ○局内 ・交通局災害対策部会議(桜島火山爆発) ・災害対策設置訓練(大雨) など	引き続き、市災害対策本部と連携した、市バスによる避難への迅速な対応や、各種訓練等への参加等に取り組んでいく。 【訓練等予定】 ○市災害対策本部関係 ・桜島火山爆発総合防災訓練 ・原子力防災訓練 など ○局内 ・交通局災害対策部会議(桜島火山爆発) ・災害対策設置訓練(地震・大雨) など
54	P17	②市のまちづくりとの連携 オ. まちづくり施策との連携(新規) かごしまコンパクトなまちづくりプラン(立地適正化計画)や鹿児島市公共交通ビジョンに基づき、市都市計画部門や市交通政策部門などと連携し、コンパクトな市街地の形成に資するよう、住宅団地や集落と中心市街地等を結ぶ市バス路線網の構築や、路線バスと市電との結節機能を高めること等を検討します。	○	庁内で開催される会議に参加し、意見交換を行った。 ・かごしまコンパクトなまちづくりプラン推進協議会(平成30年11月29日開催) ・鹿児島市公共交通ビジョン推進会議(平成30年8月21日開催)	30年度と同様の取組を行う。
55	P17	②市のまちづくりとの連携 カ. 地域社会に根ざした取組 (i) インターンシップや職場体験の受入 インターンシップの受入により教育環境の整備に貢献するとともに、次代を担う中学生等に交通局での職場体験を受けてもらうことで、交通事業者への理解と市電・市バスに対する親しみを持ってもらう機会を提供します。	○	申込のあった学校を対象に職場体験学習の受入を行った。 ○職場体験学習 ・中学校: 18校 63人 ・高校: 3校 12人 ・実施内容: バス及び電車清掃作業、交通局概要説明 など ○インターンシップ ・30年度実績なし	申込のあった学校を対象に職場体験学習及びインターンシップの受入を行う。 ○職場体験学習 ・受入対象: 中学生・高校生 ・実施内容: バス及び電車清掃作業、交通局概要説明 など ○インターンシップ ・受入対象: 大学生 ・実施内容: バス広告媒体調査、取扱店営業活動、資産視察、モニター会議見学、交通局概要説明 など

(4) 公共交通事業者としての役割を踏まえた事業推進

番号	計画掲載	具体的方策 ◎=29・30年度完了 ○=継続実施 ☆=元年度実施(新規・拡充) ▲=検討中	状況	30年度実績 (実施内容)	元年度(31年度)計画 (実施予定内容)
56	P17	②市のまちづくりとの連携 カ. 地域社会に根ざした取組 (ii)協定を締結している大学等との連携(拡充) それぞれの持つ資源や機能等の活用を図るため、市と協定を締結している大学等と連携し、若者感覚を取り入れたイベントの実施やグッズの共同開発などによりイベント等の魅力向上を図ります。	○	・鹿児島国際大学生らが中心となって誕生した、白くま黒豚電車「でんでん」の運行を継続して実施した。 ・「2018市電・市バスゆーゆーフェスタ」内イベントで、大学等に出演(出演)を依頼した。 実績:でんでん記念撮影等(鹿児島国際大学ゼミ生)よさこい節披露(鹿児島大学サークル団体)	・継続して「でんでん」を運行する。 ・引き続き、大学等と連携したイベントの実施を検討する。
57	P17	②市のまちづくりとの連携 カ. 地域社会に根ざした取組 (iii)ゆーゆーフェスタ等イベントの実施 交通局敷地等において、市電・市バスに関連したイベントを行うことで、多くの方々に直接車両に触れていただき、親しみ・興味を持っていただくとともに、町内会をはじめとする関係団体等との連携を通じて、地域の人・モノを活かすことにより、利用促進と更に親しまれる交通局を目指します。	○	市電・市バスゆーゆーフェスタを下記のとおり実施した。 ・日時:平成30年10月20日(土)10時~15時 ・場所:交通局敷地及び上荒田の杜公園 ・来場者数:約3,300人	ゆーゆーフェスタ等イベントを引き続き検討・実施する。 ゆーゆーフェスタ ・日時:10月中旬(予定)
58	P18	③積極的な情報発信 ア. 公共交通の担う役割や経営状況等の情報発信(拡充) 少子高齢化の進行により人口が減少する中、市がコンパクトなまちづくりを進めていく上で、公共交通ネットワークの維持・存続が必要であること、また、交通局の経営健全化の取組や厳しい経営状況にあることなどについて各種媒体を通じて丁寧に情報発信します。	○	29年度決算等を局ホームページに掲載した。	引き続き、30年度決算等を局ホームページに掲載する。
59	P18	③積極的な情報発信 イ. PR活動の推進 局ホームページ及び市電・市バス車内や停留場等において時刻表や路線図、各種乗車券の情報などを提供することで利便性の向上を図るほか、「市民のひろば」や市政広報テレビ番組などを通じた情報提供に努めます。また、局フェイスブックにおいて日々の情報や身近な話題などを提供し、より親しまれる交通局を目指します。 さらに、市内外の学校(教育委員会を含む。)や事業所等に対し、ダイレクトメール等により一日乗車券・夏休み子供乗車券(チャレンジパス)等や貸切電車・カゴシマシティビュー・観光電車などのPRを行うとともに、市政出前トーク等の際に、敬老パス制度や運転免許の自主返納に伴う運賃の割引制度等の説明をするなど、町内会等への周知に努めます。	○	①広報媒体への情報提供 ・市民のひろば記事掲載 47件 ・市政広報テレビ番組出演 4回 ・局フェイスブック記事掲載 118件 ②ダイレクトメール等によるPR 市内の小・中・高校及び近隣市を通じた各管内小・中学校へのPRを実施(1回:チャレンジパス、貸切電車バス利用促進) ③市政出前トークの実施 5件	引き続き、市広報紙「市民のひろば」や、市政広報番組、局フェイスブック等の広報媒体を用いた積極的な情報提供や、市内外の学校や事業所等へのダイレクトメール等によるPRを実施する。